

令和4年度 徳島県ふるさと・水と土保全対策懇話会 会議録

1 日 時 令和5年3月28日(火) 13時30分から14時30分まで

2 場 所 徳島市 徳島グランヴィリオホテル2階「福寿」

3 出席者

【委員】花本委員、田中委員、板東委員、西崎委員、富浦委員

(欠席：上家委員、尾崎委員)

【県】 農山漁村振興課長、振興・創生担当3名

4 懇話会次第

1)あいさつ

2)自己紹介

3)協議内容

①ふるさと水と土保全対策及び棚田地域等保全対策の概要について

②令和4年度の事業経過について

③令和5年度の事業計画について

④意見交換

⑤その他

5 会議録(事務局説明の後、花本委員の進行による意見交換の内容を記録)

委員 「鳥獣害被害の面積が減ってきているが、どうしてか。」

県 「鳥獣の捕獲など、鳥獣対策の取組が進んでおり、減少している。」

委員 「中山間地においては高齢化等でみかんの収穫に困っていると話を聞くが、支援事業はがあるのか。」

県 「新聞紙面でも、柚やスタチの収穫が難しく後継者が出てこないとの記事があった。とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業では、ふるさと団体から応援の依頼により、八朔やゆず等の収穫作業の支援を行っている。まずは、ふるさと団体に登録していただく必要がある。県としても情報をつかんだら地域に声がけをしたい。また、地域によっては、外から人が来ることに抵抗感があるところもあるので、事業実績等を説明をしながら取組を進めていきたい。」

委員 「農村RMOの取組事例の中にリモコン草刈り機による農用地の維持管理が掲載さ

れていた。高齢化でなかなか維持管理ができないので、このような取組は非常に良いと思う。」

県 「農村RMOについては、中国四国地方では島根県、高知県で取り組みが始まっている。情報発信について、農林水産省がウェブで行っており、県内でも関心を持っている市町村がある。農村RMOは、3カ年での取組を国費100%で実施できる。全国で100地区と言われているが、100地区では足りないということで対象地域の拡充の要望がでてきている。県としては、国費をもらう前に、県費を使って地ならしを行い、実施に向けての取組を進めていきたい。」

委員 「農作業をしたいと思っている若い世代が結構いるという印象がある。勝浦町のみかんとか、上勝町の晩茶、高丸山の除草の作業など、積極的に希望し参加される若い方が増えてきている。応援し隊の仕組みを知らない人もいると思うので、情報発信のやり方を考えてはどうか。」

県 「ホームページにより発信しているが、わかりにくいところもあり、新たに応援し隊事業のパンフレットを作成した。また、若い方はSNSを使っている方も多いため、いろいろなチャンネルで紹介していく。ホームページも、ふるさと団体や協働パートナーの申込の様式などを掲載し、よりわかりやすいものにしたい。」

委員 「ふるさと水と土指導員活動支援事業の拡充内容を教えて欲しい。」

県 「①は、従来から行っている活動支援事業。②は、ふるさと水と土指導員が、候補者の方と一緒に指導助言をしながら活動する事業に対し、上限10万円の支援をする。③連携支援事業は、ふるさと指導員同士が連携して事業をする場合、お一人上限5万円となる。②は、指導員にはなりたいが迷っている人やこんなことをやってみたいと考えている人に対し、候補者がやってみたいことを、既存の指導員がサポートしながらやる事業で、新たに指導員になっていただく道筋をつくる事業である。」

委員 「ふるさと応援し隊の事業で、協働パートナーの掘り起こしは、どのようにやっているのか。」

県 「県の他課が実施する事業で協働活動に熱心に取り組んでいる団体を教えてもらうとともに、ふるさと団体から、協働パートナーに興味を持つ団体の情報をお聞きするなどして情報を把握し、協働パートナーになっていただくようお願いしている。」

委員 「情報は、本当にそれを望んでいる方まで届かないこともある。どういう周知の仕方が良いと考えているのか。」

県 「交流会のように直接会うことで相手のことがわかり、信頼できる情報になると思う。そこにSNS等を組み合わせながらやっていくのがいいのではないかと考える。」

委員 「農村RMO説明会はどのようにしているのか。」

県 「国はウェブ等で開催している。また、県に連絡いただくと、担当者が現場に伺い、説明を行っている。」